

みなさまと共創していく、
新しい未来

We want to create the future with you.



第**53**期
Business Report

2025年4月1日～2026年3月31日

株式会社クレオ

証券コード：9698

新たな経営体制のもと、ビジネス環境の変化に迅速に対応し、主力事業のさらなる成長とグループ企業間の連携強化を推し進めてまいります。

株式会社クレオでは、2026年4月より新体制が始動いたしました。現在、生成AIをはじめとするIT技術の急速な進化により、ビジネス環境は大きな転換期を迎えています。私たちは今、これまでの経営基盤を礎に、従来の「守り」から脱却し、果敢に未来を切り拓く「攻め」の姿勢へと転換します。常に時代を見る鋭い眼と柔軟な発想を持ち、「100年企業」として豊かな未来社会の実現に貢献すべく、クレオグループ一丸となって邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長 CEO
柿崎 淳一

代表取締役社長 COO
二宮 桐人

二宮社長にお聞きします。新社長に就任された今のお気持ちを聞かせてください。

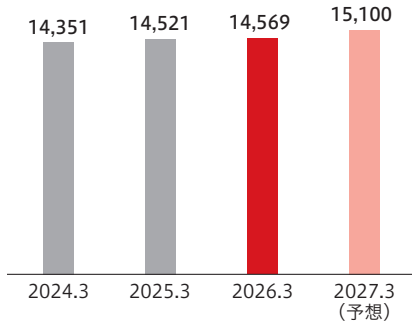
2026年4月1日付で当社代表取締役社長 COOに就任いたしました二宮桐人です。私たちクレオグループが持続的な成長を遂げるためには、果敢に挑戦する「攻め」の姿勢へと転換することが不可欠であると考えています。従来型のビジネスモデルを再構築し、AI対応を中心に据えて、組織としてAIを全面的に推進してまいります。AIを操ることができなければ、これまでの当社の事業領域についても浸食されかねないとの危機感を持って、AIに積極的に先行投資を実施してまいります。

それでは、2026年3月期の概況について教えてください。

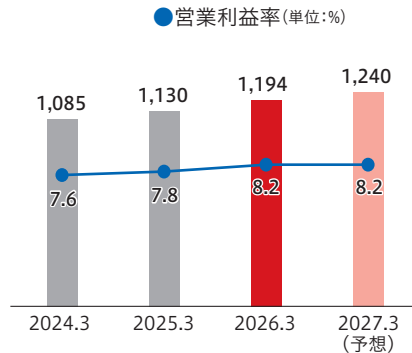
サポートサービス事業などで主要顧客の業務内製化の影響を受けるなどの動向はありましたが、成長の柱と位置づけるソリューションサービス事業を中心に全体としては堅調に推移し、特にソリューションサービス事業のストックサービス(利用料サービス、サブスクリプション等)について順調な拡大を継続することができました。

以上の結果、売上高は145億69百万円(前年同期比0.3%増)、営業利益は11億94百万円(前年同期比5.7%増)、経常利益は12億7百万円(前年同期比4.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は8億7百万円(前年同期比15.9%増)となり、増収増益を達成するとともに、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は過去最高を更新することができました。

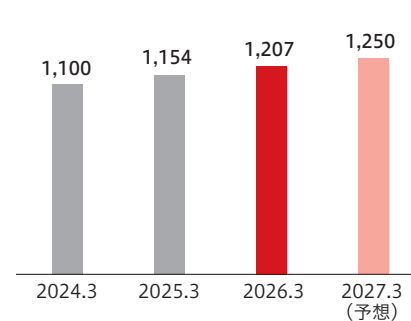
売上高 (単位: 百万円)



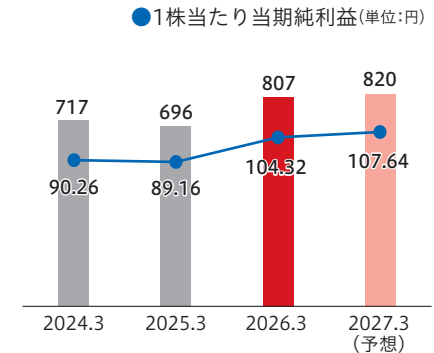
営業利益 (単位: 百万円)



経常利益 (単位: 百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



2027年3月期の見通しについてはいかがでしょうか。

2027年3月期については、これまで人に依存したサポート業務など、将来的にAIに置き換わる領域が拡大する中で、この状況を高付加価値な次世代サービス創出の好機と捉え、事業モデルの転換を強化してまいります。持続的成長に向けた事業基盤の再構築を進めるため、2027年3月期は現行中期経営計画の最終年度となりますが、数値目標については、売上高151億円、営業利益12億40百万円に修正いたします。経常利益は12億50百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は8億20百万円を見込んでいます。新たなビジネスモデルを構築するとともに製品投資の強化を進め、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益について過去最高益の更新を目指してまいります。

事業環境が大きく変わる中での成長戦略をお聞かせください。

まず、成長の柱と位置づけるソリューションサービス事業においては、引き続き収益性の高いストックビジネスを強化するとともに、営業力を強化して顧客基盤の拡大に徹底してこだわってまいります。

また、「ZeeM」等の主力ERP製品について、トレンドの反映やAIの組み込みなど、攻めの投資によるプロダクト競争力の強化を図ってまいります。さらに、自社製品のAI実装に留まらず、他社のAI製品開発・AI機能の実装に貢献し、ビジネスとしての拡大を狙ってまいります。

一方で、受託開発事業、システム運用・サービス事業、サポートサービス事業の3事業については、主要顧客の業務内製化や将来的にはサポート業務がAIに置き換わっていくなど、ビジネス環境の変化による影響を大きく受ける領域でもあります。

これらの課題を解消し、次世代サービスへと転換していくためにも、「One CREO」によるグループ・事業部の壁を越えた連携営業を推進し、ソリューションサービス事業とのクロスセルを強化してまいります。

こうした取り組みを背景に、筆頭株主であるアマノ株式会社との共創を一段と深め、当社グループの強力な成長ドライバーとして業容の拡大を目指してまいります。

同社との取引については、勤怠管理パッケージシステムの新製品におけるAI機能の組み込みを当社が担当しており、そこで蓄積したノウハウを当社製品のAI開発にも応用していく計画です。

さらに、AI開発を含む同社製品の個別開発への初参入や同社のサポート業務のアウトソーシングを当社グループで全面的に支援する調整を進めています。環境変化を次世代サービス創出の好機と捉え、アマノ株式会社との協業を深めることで、グループ全体の持続的な成長へとつなげてまいります。

最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、2026年3月期で9期連続の増配を行っています。

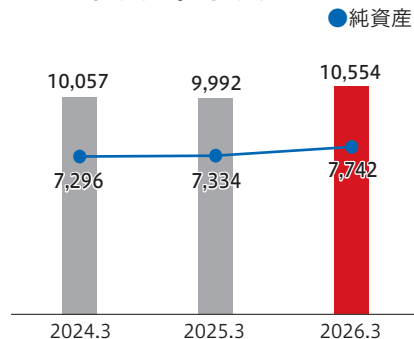
2027年3月期も1株当たり1円増配の56円を予定し、10期連続の増配を計画しています。また、機動的な自己株式取得も継続して実施しており、2027年3月期には150百万円の自己株式取得を計画しています。

当社グループは、「VISION2030 持続的成長への変革と創造」を中長期の経営ビジョンに掲げ、すべてのステークホルダーにとって魅力的な企業として存在し続けることを目指しています。現在、「VISION2030」達成に向けた次期中期経営計画について、2027年5月頃の開示予定で策定を進めており、これを「100年企業」への通過点として、変革を成果につなげ、成長を加速させてまいります。

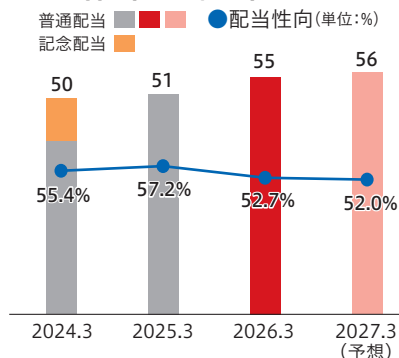
株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



総資産／純資産 (単位：百万円)



1株当たり配当金 (単位：円)

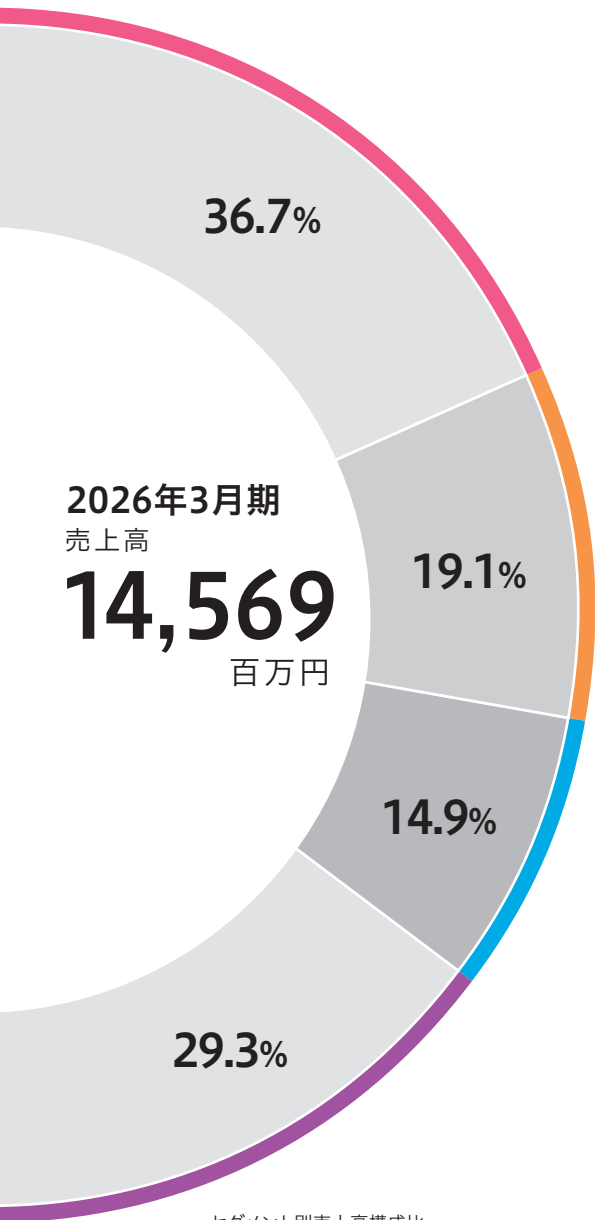


利益配分に関する基本方針と当期・次期の配当について

当社は株主の皆様への剰余金処分を経営の重要な政策の一つとして考えており、配当に関しては長期的な視点に立ち、連結経営成績に応じた安定的な利益の配分を基本方針としております。また、株主の皆様への長期的な利益還元をさらに充実させるため、連結配当性向40%を目標としております。

これらの方針に基づき、2026年3月期の配当金につきましては、当初計画を3円上回る、1株当たり55円といたしました。配当性向については52.7%となりました。

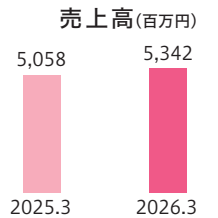
また、2027年3月期の配当金につきましては、1株当たり56円、配当性向52.0%を予想しております。



ソリューションサービス事業

売上高 **5,342** 百万円 営業利益 **1,019** 百万円

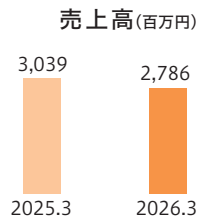
ストックサービス(利用料モデル)等が堅調に推移して収益基盤が安定的に拡大し、売上高は前年同期比で2億83百万円増加、営業利益は前年同期比で1億15百万円増加いたしました。



受托開発事業

売上高 **2,786** 百万円 営業利益 **553** 百万円

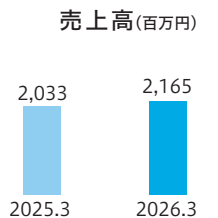
戦略的な開発体制のシフト及び前期大型プロジェクト完了の影響から、売上高は前年同期比で2億52百万円減少、営業利益は前年同期比で3百万円減少いたしました。



システム運用・サービス事業

売上高 **2,165** 百万円 営業利益 **309** 百万円

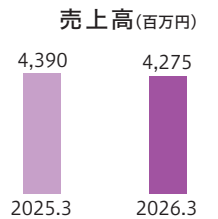
主要顧客の受注が堅調に推移したことから、売上高は前年同期比で1億31百万円増加、営業利益は前年同期比でほぼ変わらずとなりました。



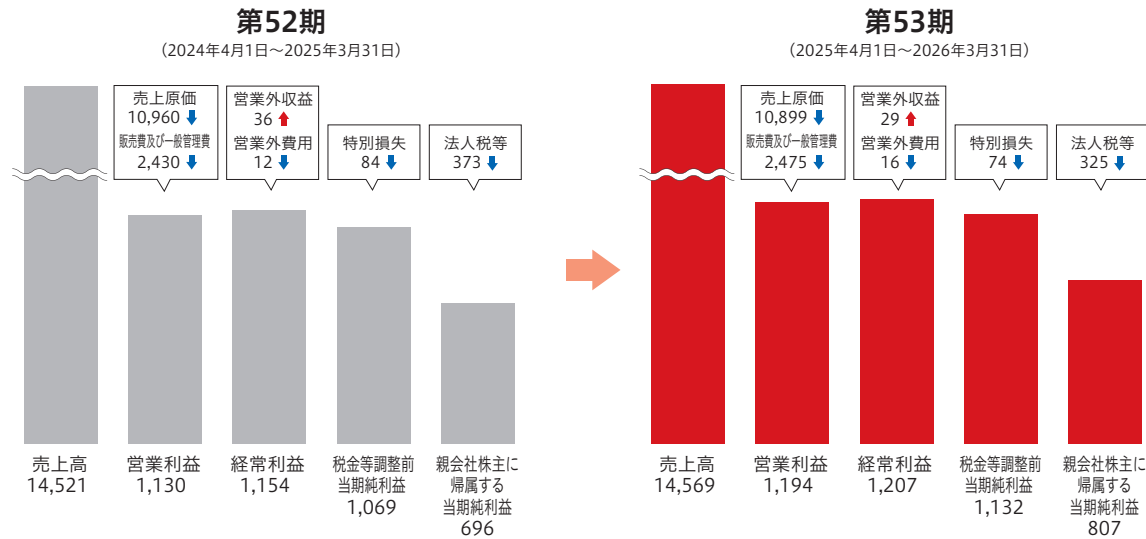
サポートサービス事業

売上高 **4,275** 百万円 営業利益 **275** 百万円

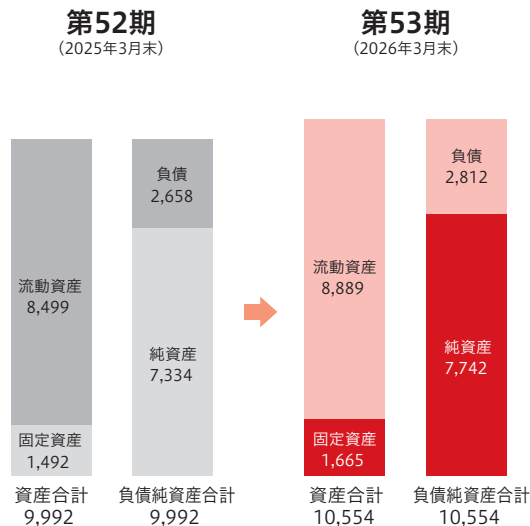
主要顧客における組織統合に伴う業務の内製化の影響を受け、売上高は前年同期比で1億14百万円減少、営業利益は前年同期比で44百万円減少いたしました。



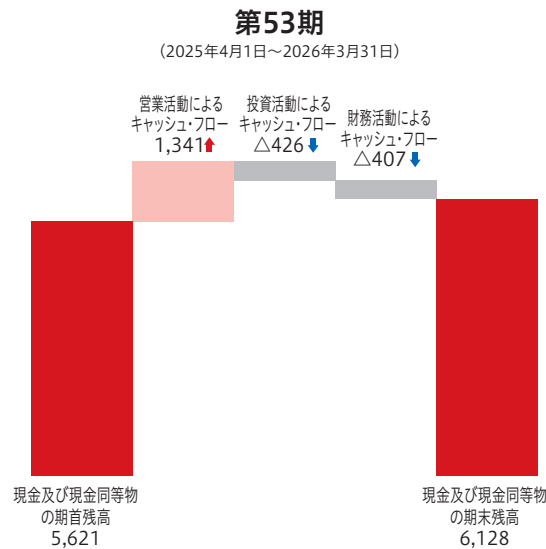
連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



	第52期	第53期
経営成績 (単位:百万円)		
売上高	14,521	14,569
売上総利益	3,560	3,669
営業利益	1,130	1,194
経常利益	1,154	1,207
税金等調整前当期純利益	1,069	1,132
親会社株主に帰属する当期純利益	696	807
財政状態 (単位:百万円)		
資産合計	9,992	10,554
流動資産	8,499	8,889
固定資産	1,492	1,665
負債合計	2,658	2,812
流動負債	2,389	2,512
固定負債	268	300
純資産合計	7,334	7,742
キャッシュ・フロー (単位:百万円)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	972	1,341
投資活動によるキャッシュ・フロー	△278	△426
財務活動によるキャッシュ・フロー	△656	△407
現金及び現金同等物の期末残高	5,621	6,128
1株当たり情報 (単位:円)		
1株当たり当期純利益	89.16	104.32
1株当たり純資産	947.92	999.91
1株当たり配当金	51.00	55.00
財務指標		
自己資本当期純利益率(ROE)	9.5%	10.7%
総資産経常利益率(ROA)	11.5%	11.7%
自己資本比率	73.4%	73.4%

TOPICS

1

AIと共創する未来へ：「DX本部」によるビジネスモデルの変革

当社は、最先端技術をプロダクトへ迅速に実装し、新たなビジネス価値を創出するため「DX本部」を新設いたしました。同本部では、AIを単なる効率化のツールではなく業務の「パートナー」と位置づけ、人が「判断」に集中しAIが「作業」を担う新たな業務フローの構築を推進しております。この取り組みを通じて自社製品のAI実装を加速させるだけでなく、他社の製品開発を支援するサービス提供も視野に入れ、従来の受託型から高付加価値な「技術パートナー」へとビジネスモデルの転換を強力に推進してまいります。



TOPICS

2

「One CREO」戦略の加速：製品間連携によるトータルソリューションの提供

主力製品である人事・会計システム「ZeeM」と、新ブランド「SmartStage」の連携をさらに強固にし、グループの総力を結集した「One CREO」によるクロスセルを推進しております。2025年12月の「雇用契約管理」及び2026年4月の「文書管理」のリリースにより、顧客企業のDX化や内製化のニーズに先手を打つトータルソリューションの提供体制を整えました。今後もアマノ株式会社との共創強化などを通じて、お客様の業務全体の最適化を支援し、持続的な増収基盤を確固たるものにしてまいります。



TOPICS

3

人的資本経営の深化：7年連続での「健康経営優良法人」認定

当社の成長を支える最大の資産は「人」であり、エンジニアのリスキングやAI活用能力の向上を支える基盤として、健康経営を最優先事項に掲げております。この姿勢が評価され、2026年3月に「健康経営優良法人2026（大規模法人部門）」に認定されました。制度開始から7年連続での認定は、当社の人的資本経営が着実に実を結んでいる証です。今後も、社員がAIなどの先端技術を自在に操り、創造性を最大限に発揮できる環境を整えることで、持続的な企業価値の向上と豊かな未来社会の実現に貢献してまいります。



会社概要

商号	株式会社クレオ	
所在地	東京都品川区東品川四丁目10番27号	
役員	(2026年6月23日現在)	
	代表取締役会長 CEO	柿崎 淳一
	代表取締役社長 COO	二宮 桐人
	取締役 兼 常務執行役員 CFO	鳥屋 和彦
	社外取締役	春木 謙一
	社外取締役	室井 清孝
	社外取締役	木脇 秀己
	常勤監査役	雨田 高志
	社外監査役	高橋 貢子(公認会計士)
	社外監査役	水田 進(弁護士)
設立	1974年3月22日	
資本金	3,149,650千円	
連結売上高	14,569百万円 ※2026年3月期実績	
従業員数	連結	1,167人
	単体	507人

株式の状況 (2026年3月31日現在)

発行済株式総数 8,585,688株
株主数 5,884名

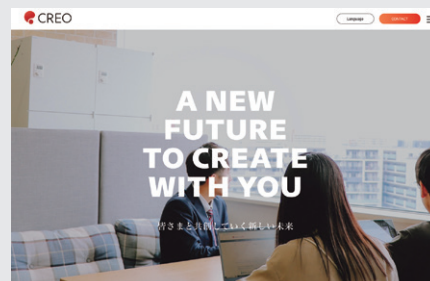
大株主 (2026年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
アマノ株式会社	2,645	32.6
LINEヤフー株式会社	1,100	13.6
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	372	4.6
クレオ従業員持株会	268	3.3
和田 正次	151	1.9
椎名 敬一	143	1.8
丸田 稔	106	1.3
明治安田生命保険相互会社	100	1.2
BBH(LUX) FOR MUFG GLOBAL FUND SICAV-MUFG JAPAN EQUITY SMALL CAP FUND	66	0.8
呉 春毅	59	0.7

(注)1. 当社は株式給付信託を導入しており、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が372千株を所有しておりますが、自己株式には含めておりません。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算(小数点第二位を四捨五入)しております。
3. 当社は自己株式を470千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

WEBサイトのご案内

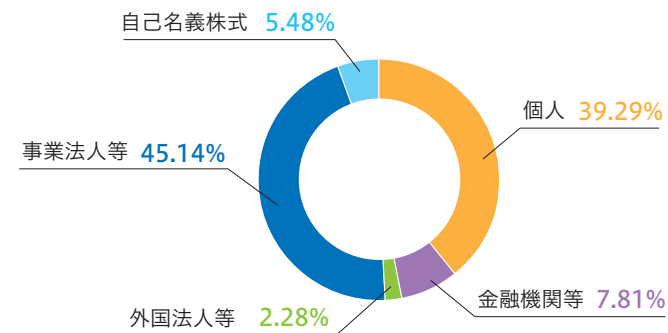
当社ホームページでは、詳細なIR情報や財務情報など、株主・投資家様向けの情報の掲載はもちろんのこと、メールによる「IRメール配信サービス」も行っております。是非一度ご覧ください。



<https://www.creo.co.jp/ir/>



所有者別株主分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
公告の方法	電子公告の方法により行う。 公告掲載URL https://www.creo.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない 事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

理念・行動規範

企業理念

私たちは、「人間の想像力」と「世界中のテクノロジー」を結合することで、「感動！」を生む変革を起こし、豊かな未来社会の実現を目指します。

行動指針

～幸せな企業人であり続けるための7つの行動～

1. 感謝の気持ちを忘れない
2. 信頼すること、されることを重んじる
3. いつも誠実に行動する
4. 心も技術も磨き続ける
5. より健康であり続ける
6. 恐れずに何ごとにも挑戦する
7. 仕事にも社会にも人生にも成果を出す



このロゴには、3つの「想い」が込められています。

1つは「感動」を生むこと

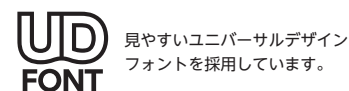
クレオは「感動」を提供する企業です。常に周囲の期待を超え、驚きを提供していく姿をロゴに託しました。ロゴはエクスクラメーションマーク(感嘆符)をかたどりました。球形はクレオ自身を表します。共に語り、共に考え、共に成長するという共創の精神を象徴しています。

1つは「創造」し続けること

クレオの歴史は創造の歴史です。ロゴは、知識や技術、関係の新たな結びつき(新・結合=イノベーション)を発見、創造し続ける決意を象徴しています。クレオ自身を示すこの球体から、次代を担う人財、製品、サービスが次々と生まれ、大きく育っていく姿を表しています。100年企業を目指し、時代時代にあわせ、変化し続ける姿です。

1つは「永遠(とわ)」に寄り添うこと

クレオはいつもステークホルダーの皆様に関わり続ける企業でありたいという願いを込めました。ロゴは、クレオ自身である球体が、お客様や社会、株主の皆様に関わり添っているというイメージを表現しています。社会に貢献できる価値を提供し続ける企業であるという私たちの願いを象徴しました。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙

